

外国人技能実習機構  
契約監視委員会（第 1 回）議事概要

1. 日時

令和 4 年 12 月 27 日（火） 13:30～15:30

2. 場所

外国人技能実習機構 会議室

3. 出席者（委員（敬称略））

高田 晴仁（慶應義塾大学大学院法務研究科（法科大学院）教授）

島田 耕一（山分・島田・西法律事務所 弁護士）

山口 留美（山口留美公認会計士事務所 公認会計士）

杉澤 直樹（外国人技能実習機構 監事）

藤川 裕紀子（外国人技能実習機構 監事）

4. 議題

- （1）契約監視委員会の設置について
- （2）令和 4 年度上半期における契約状況について
- （3）個別審議案件（6 件）

5. 議事

- （1）契約監視委員会の設置について  
事務局から資料に基づき説明が行われ、高田晴仁委員が委員長に選任された。

- （2）令和 4 年度上半期における契約状況について  
事務局から資料に基づき説明が行われた。

- （3）個別審議案件（6 件）

令和 4 年 4 月 1 日から令和 4 年 9 月 30 日までに契約締結した案件の中から、一般競争入札 4 件（総合評価落札方式 2 件、最低価格落札方式 2 件）、随意契約 2 件を抽出して審議が行われた。委員からの主な意見は以下のとおり。（●委員○事務局）

<抽出審査 1（令和 4 年度技能実習計画認定申請書類の入力業務等）>

- 予定価格に対して、かなり低い価格で落札されている。今後の予定価格の設定にお

いては、業者の見積だけでなく過去の実績等も考慮すること。

- 過去の落札率等実績を参考に予定価格を算定する。
- 開札日（令和4年3月17日）から業務開始日（令和4年4月1日）までの期間が短い。開札日はもう少し早くすべき。
- できるだけ早い時期に開札できるよう努める。

#### <抽出審査2（令和4年度外国人技能実習機構母国語相談等業務）>

- 一者応札が続いているが、他の業者でも業務を実施できるのか。
- 過去に別の企業が受託したこともあり、幅広く声をかければ受け手はあると考えている。
- 業務の質を確保するために、利用者の意見についてモニタリング等を実施しているのか。
- 相談結果については都度、機構担当が確認している。なお、利用者から意見があった場合も機構担当が適切に対応している。

#### <抽出審査3（令和4年度外国人技能実習機構における労働者派遣業務）>

- 仕様書要件を満たす人材が確保されない、また、一定期間、人材が派遣されないなどの事故を避けるため、複数者と契約を締結するのはどうか。
- 現行の入札方法では複数者と契約するのは困難。なお、人材のミスマッチについては、仕様書の業務内容等の充実、その他、入札説明会を実施するなど要件を適切に伝えるようにして改善していきたい。
- 開札日（令和4年3月11日）から業務開始日（令和4年4月1日）までの期間が短い。参加企業を増やす及び業務を確実に実施するためにも、もう少し期間を設けるべき。
- できるだけ早い時期に開札できるよう努める。

#### <抽出審査4（令和4年度外国人技能実習機構におけるレンタカー契約）>

- 他の契約と異なり複数業者の見積単価の平均ではなく、安価な単価を予定価格としている理由如何。
- 製品が特定され、かつ凡用・市場性の高い物品等の場合は、安価な単価で予定価格を設定している。

#### <抽出審査5（外国人技能実習機構データベースシステムに係る運用・保守（令和4年度延

長) >

- 予定価格の算定はどのような方法で行っているか。
- 工数については、ベンダーの見積書から引用。単価については、主要 IT ベンダー各社の技術者サービス料金の平均単価を使っている。

<抽出審査 6 (外国人技能実習機構データベースシステム刷新に係る移行支援業務 (令和 4 年度) >

- 現行ベンダーの見積書の工数については CIO の設置あるいは外部委託などにより専門的なチェックが必要。また、機構の精査結果も経緯をまとめておくこと。
- 次回以降、同様のケースにおいては、工数の妥当性について外部のチェックが入るよう工夫していきたい。

以 上